

目的

本研究の目的は、期間・能動性・実務性の三軸を用いたインターンシップの分類によって学生にとって有意義なインターンシップを判別することである。

背景

インターンシップのイベントにいつてもどこに行けばいいのかわからなかった。せっかくインターンに行くのであれば、有意義なインターンに行きたい。しかし、選ぶ基準が明確でない。このため、インターンシップを選ぶ基準を定めることができれば、就職活動する学生にとって有意義である。

有意義なインターンシップの条件について、就職委員である二名の教員にインタビューを行った。その結果、「雑用であっても実務が良い」[1]（実務性）、「経験した内容が深い方が良い」[2]（能動性）という意見を得た。ほかにも「課題の難易度」、「テーマの新しさ」、「賞与の有無」などの要素が挙げられたが、今回は実務性と能動性の二軸によって分析する。加えて、インターンシップが期間によって分類されているため、これを第三軸とする。

既存研究

インターンシップの分類には、トライゲートによる5分類[3]、NPO法人JAEによる5分類[4]がある。しかし、これらでは有意義なインターンシップが見つげにくい。このため、新たに分類を作る。

3軸による分類

インターンシップ検索サイト[5]を用いて、期間分類（4種類）ごとに10社ずつ標本を抽出し、実務性、能動性のスコアを付け、散布図を作成した（図1）。本研究の「良いインターンシップ」は散布図の右上の象限に位置づけられる。

結果

この結果から、以下の知見を得た。

1. 期間が長くなるほど、良いインターンシップが増える。
2. 期間の短いインターンシップでも、良いインターンシップはある。

課題

今後、以下の課題を解決していく。

1. 手作業の分類をAI化
2. 標本を増やす
3. 条件を変える
4. 軸を変える

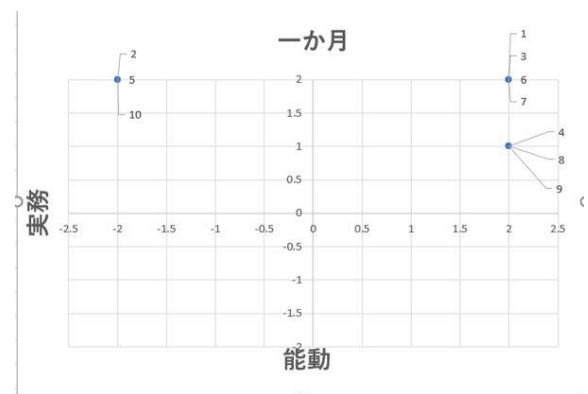


図1：インターンシップの分類例（期間一か月）

参考文献

- [1] 多摩大学経営情報学部准教授初見庸行先生とのインタビュー 2019/11/18
- [2] 多摩大学経営情報学部准教授西村知晃先生とのインタビュー 2019/11/18
- [3] <https://www.trygate.com/article/?p=1604&page=5> 閲覧日 2020/1/20
- [4] <http://jae.or.jp/blog/2018/03/70678/> 閲覧日 2020/1/20
- [5] <https://job.career-tasu.jp/2021/top/> 閲覧日 2020/1/20